

**令和 3 年（2021）年度マダラ本州日本海北部系群、
ムシガレイ日本海南西部系群、ソウハチ日本海南西部系群
およびニギス日本海系群の管理基準値等に関する研究機関会議提案
（211026）**

国立研究開発法人 水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 3（2021）年度マダラ本州日本海北部系群、ムシガレイ日本海南西部系群、ソウハチ日本海南西部系群およびニギス日本海系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、今後の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

1）マダラ本州太平洋北部系群

管理基準値

- ・目標管理基準は、SBmsy で 5.2 千トン
- ・限界管理基準値は、SB0.6msy で 2.5 千トン
- ・禁漁水準は、SB0.1msy で 0.4 千トン

調整係数 β

・ β が 0.9 以下の漁獲圧であれば、10 年後の親魚量は目標管理基準を 50%以上の確率で上回ると推定された。ただし、資源評価等の一般的な不確実性を考慮すると β は標準値である 0.8 以下 にすることが望ましい。

その他

- ・再生産関係のパラメータ推定に使用するデータには、令和 2（2020）年度の資源評価で推定された 2000～2015 年の親魚量と 3 年後（2003～2018 年）の 3 歳魚時点での加入量を用いた。
- ・上記の仮定に基づく本系群の再生産関係として、最小二乗法で最適化した自己相関を用いない HS 型再生産関係を用いた。

2）ムシガレイ日本海南西部系群

管理基準値

- ・目標管理基準は、SBmsy で 40 百トン
- ・限界管理基準値は、SB0.6msy で 19 百トン
- ・禁漁水準は、SB0.1msy で 3 百トン

調整係数 β

・ β が 0.9 以下の漁獲圧であれば、10 年後の親魚量は目標管理基準を 50%以上の確率で上

回ると推定された。ただし、資源評価等の一般的な不確実性を考慮すると β は標準値である 0.8 以下 にすることが望ましい。

その他

- ・再生産関係のパラメータ推定に使用するデータには、令和 2（2020）年度の資源評価で推定された 1993～2018 年の親魚量と翌年（1994～2019 年）の 1 歳魚時点の加入量を用いた。
- ・上記の仮定に基づく本系群の再生産関係として、最小二乗法で最適化し自己相関を考慮したホッケースティック型再生産関係を用いた。

3) ソウハチ日本海南西部系群

管理基準値

- ・目標管理基準は、SBmsy で 41 百トン
- ・限界管理基準値は、SB0.6msy で 16 百トン
- ・禁漁水準は、SB0.1msy で 2 百トン

調整係数 β

・ β が 0.9 以下の漁獲圧であれば、10 年後の親魚量は目標管理基準を 50%以上の確率で上回ると推定された。ただし、資源評価等の一般的な不確実性を考慮すると β は標準値である 0.8 以下 にすることが望ましい。

その他

- ・再生産関係のパラメータ推定に使用するデータには、令和 2（2020）年度の資源評価で推定された 1997～2018 年の親魚量と 1 年後（1998～2019 年）の 1 歳魚時点での加入量を用いた。
- ・上記の仮定に基づく本系群の再生産関係として、最小二乗法で最適化し自己相関を考慮したホッケースティック型再生産関係を用いた。

4) ニギス日本海系群

適用する管理規則

「令和 3（2021）年度 漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針」の 2 系資源の管理規則を適用する。

目標および限界水準

- ・目標水準は、資源量指標値の 80%水準で 98.7 (kg/網)
- ・限界水準は、資源量指標値の 56%水準で 84.1 (kg/網)

その他

- ・ 目標および限界水準の推定に使用するデータには、令和 3（2021）年度本系群の資源評価で用いた漁獲量および 1975～2020 年の 1 そうびき沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書から得た標準化 CPUE（資源量指標値）を用いた。
- ・ 2020 年の資源量指標値は 22.4%水準であるため、漁獲量に乘じる係数は 0.529 となる。